

伝笑鳩例会<幸 裕 (=交友) 録>(頓珍漢な会話)

1. 「5年ぶりに会った友人が見分けられへんかった!!」

<裕> 1月の下旬に一回り年の若い男性の友人と約束し、横浜の JR 桜木町駅で 15 時半に待合せしてん。昔からある駅中央(南口)の自動改札口を出たところに約束の 10 分前には着いて待ったわけや。

ワテが着いた時、改札口へ向かって左端にやや太めの中高年のオッサンが、同じく右側にもやや疲れた感じの中高年のオッサンが人待ち顔で立ってん。

<幸> 一目でどちらもお友達とは「ちゃう」思たわけやな？

<裕> 思た。電車が着いて降りて来る人の中にもおらんし、約束の時間も過ぎてしもた。その時ワテの 目 が鳴ってん。「S です。(南口) とある改札口でお待ちしてるんですが。」前に桜木町駅で別の友人と待合せた時に、友人が誤って駅中央の改札口より南の市役所新庁舎に近い新しい改札口におったことがあったさかい、今回もそれや思て市役所口へ行ってん。そやけど誰もおらん。今年は<午年>やのに狐に化かされたかと思て S さんの 目 へ折返したら「(南口) でお待ちしています。」ちゅう返事。そいで再度駅中央の改札口(南口)へ戻ってん。冒頭の 2 人の中年のオッサンのうち、右側のオッサンはもうおらんかったさかい、左側のオッサンへ声がけしたら「S です。」言いはんねん。啞然としたで。

<幸> お前自身、ニット帽被ってマスク着用してたんちゃうの？

<裕> そやねん。「顔の 1/4 くらいしか見えてへんかったさかい、わからんかってんて。」毎年電話したり年賀状交換してたからワテは友人の昔の姿の思い込みがあった思うで。

<幸> 皆年取って、短期間で、結構激しく変わるようになってんのもあんで。

<裕> これから友人と待合せる時は<有人>改札口を指定すんのがエエかもな。

2 内館牧子さん逝く！

<裕> 昨年末に脚本家の内館牧子さんが亡くなった。まだ 77 歳。美大を出て就職したのがワテが配属された会社・工場の同じ勤労部。内館さんは面接で「一般的な事務仕事は出来ないから工場の社内報担当でなければ落として下さい。」と言ったそうや。採用されてカメラ片手に工場内を飛び回る活躍ぶりやった。TV ドラマ<太陽にほえろ>あたりから脚本を書き出し、退職して 1992 年朝ドラ<ひらり>、1997 年大河ドラマ<毛利元就>を担当したのはお父ちゃんも知ってのとおりや。

<幸> お相撲が大好きで<横綱審議委員会委員>も務めはったな。

<裕> 最近は<終わった人>等定年退職者のその後を描いた小説も多く、新境地を開いてはってんけどな。まだ早いつて、ウチダッテ思うで。

以 上

(大鳥羽 裕太郎)